



# To-Collabo 通信

Tokai university Community linking laboratory

Vol.13  
2017.1.18



To-Collabo Presentation

## To-Collabo プログラム報告会を開催

昨年11月5日に札幌キャンパスで、2016年度東海大学 To-Collabo プログラム報告会を開催しました。文部科学省の平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学CO-C事業)」に基づいて取り組んでいる全国運動型地域連携活動「To-Collabo プログラム」の進捗状況を、市民の皆さまや行政関係者、本学学生、教職員らに広く周知するとともに今後の発展につなげることを目的としています。

毎年1回、全国に広がるキャンパスを巡回して実施しており、4回目となった今回は、札幌キャンパス内にある付属札幌高等学校の講堂やエントランスホールで開催し、他大学や高校、地域住民、学内関係者を含め165名が参加しました。

梶井龍太郎副学長のあいさつ、To-Collabo 推進室の池村明生室長によるプログラム概要の紹介に続いて、第1部として基調対談「地域の再発見と活性化」を実施。札幌市の秋元克広市長と本学の山田清志学長が対談しました。↓記事参照。

続くパネルディスカッション「地域との対話・連携から価値を創造する」では、札幌市南区の高野馨区長をはじめ本学、付属札幌高校の教員と学生計6名が登壇。札幌軟石を活用した商品開発や高大連携による地域活性化の取り組み、学生による地域を対象としたボランティア活動などについて事例を紹介しました。また、会場を交えた質疑応答では、学生への期待や地域が大学に寄せる所望などが語られました。

第2部では、大学推進プロジェクトの4計画8事業についてそれぞれの担当教員が発表。今年度中のイベントや今後の計画、成果や課題などを紹介しました。第3部では大学推進プロジェクトと地域志向教育研究経費採択課題について紹介するポスターセッションも行いました。



第1部パネルディスカッションでは、学生、教員、地域それぞれの視点で事例報告が行われた



参加した学生も地域住民とこれからの活動について議論を交わした



第2部大学推進プロジェクト各事業の発表では会場から盛んに質問があがった



第3部ポスターセッションでは活発な意見交換が行われた

## 秋元札幌市長と山田学長が対談

札幌市の秋元克広市長と本学の山田清志学長の対談では、双方の立場から、市と大学それぞれに期待することや連携のあり方などについて語り合いました。

秋元市長と山田学長はそれぞれに、これまで札幌校舎の学生や教職員が展開してきた地域連携活動における実際の様子や、毎年7月に同校舎で開催されているラベンダー祭りについて振り返りました。

「大学CO-C事業は来年度で採択期間を終えますが、To-Collabo プログラムはこれまでつくり上げてきた事業であり、地域連携に終わりはありません。今後もさまざまな取り組みを継続していきます」と山田学長。秋元市長は、「連携を長く続けていくためには、双方の期待をマッチングしていくなくてはなりません。課題は時代に沿って次々と出てきますが、大学と地域がWIN-WINの関係構築していきたい」と語りました。



第1部基調対談では、札幌人図鑑主宰の福澤京子氏(写真左)がコーディネーターを務め、秋元市長(写真右)と山田学長(写真中央)が地域と大学の連携について語り合った



## TOKAI グローカルフェスタ 2016 を初開催

湘南校舎で昨年12月3日に「TOKAI グローカルフェスタ2016」を開催しました。大学内で別々に行われていたイベントや新しい企画を同時開催することで、「地域住民のオープンキャンパス」にしようと、9つのプログラムで50をこえる企画を用意。約1500名の来場者を迎えました。

教養学部芸術学科は音楽学課程、美術学課程、デザイン学課程の特色を生かした『おひろめ芸術祭』を開催し、留学生と日本人学生は20ブースで30の国と地域を紹介する『国際フェア』で来場者を楽しませました。課程資格教育センターは、『TOKAI × MUSEUM GO!!』と題してフランス製の昆虫を作るワークショップやシンポジウムを行ったほか、『親子で楽しむ防災広場』では『はしご車搭乗体験』などを実施。『世界一行きたい科学広場』では滝川洋二教授(教育開発センター・NPO法人ガリレオ工房理事)が「実におもしろい実験ショー」を披露しました。

2号館前では『湘南マルシェ』として、平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町の企業や団体が地域の魅力を紹介。晴天に恵まれ、チャレンジセンター「ライトパワープロジェクト」のソーラーカーチームが「Tokai Formula Cup」が「富士見通り」でデモ走行すると、大きな歓声が上がっていました。

取組代表の池村明生教授(教養学部・To-Collabo推進室長)は、「来場者の方々に「総合大学としての東海大学」をあらためて知ってもらいたい機会になったと思います。来年以降も続けていきたい」と語りました。



※ 2016年度To-Collaboプログラム 大学推進プロジェクト「ライフステージ・プロデュース計画 大学開放事業」(代表:池村明生 教養学部芸術学科 教授)の一環として実施したものです。

## TOKAI グローカルフェスタ 2016 参加者の声

TOKAI グローカルフェスタ2016に参加いただいた関係者の方々にお話を伺いました。

～「親子で楽しむ防災広場」で消防車などを紹介～



**田中 成実さん**

平塚市消防本部  
予防課予防担当  
課長代理



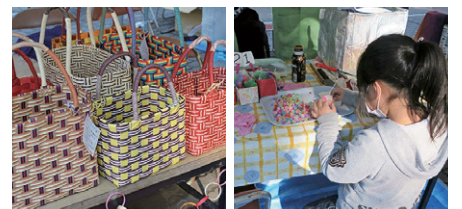
平塚市消防本部では地域向けイベントへの参加などを通じて、市民の皆さんの防災意識の向上に努めています。消防を身近な存在として感じてもらうとともに、幅広い年代に日常からの備えを訴えることが目的です。湘南校舎では以前から「防災広場」を開き、地域の安心安全を守る活動に協力いただいています。こうした活動の積み重ねが自助共助の意識づけにつながります。学生の皆さんにも積極的に参加していただき、地域の防災リーダーとして備えていただければと考えています。

～「湘南マルシェ」で学生とのコラボ商品を販売～



**高橋 眞木さん**

平塚市地域作業所連絡会  
ひらつか障がい者福祉ショップ  
「ありがとう」  
会長



「ありがとう」は、障がい者の就労支援と社会参加を図るとともに、平塚市庁舎利用者への福祉の啓発を目的に2014年にオープンしました。東海大学とは、平塚市との交流提携30周年記念事業として、「ありがとう」のロゴマークを教養学部の学生に考案してもらったコンペを通じてつながりができました。今回はボランティアサークルの皆さんに協力していただき、オリジナルのクッキーやマドレーヌを販売しました。今後もさまざまな形で協力していくことを期待しています。

# 東海大学と地域を結ぶ8つの大学推進プロジェクト

これまでに取り上げてきた4事業に続いて、今回は観光イノベーション計画の「地域観光事業」「文化・芸術事業」の代表を務める教員に、これまでの活動と今後の展開について聞きました。

## 地域観光事業

— 4学部による全国運動で

新たな観光資源を創生 —



代々木校舎で昨年12月17日に開催されたシンポジウムは、学生や教員、地域住民ら約100名が参加

本事業では、「インバウンド観光の推進による地域の活性化」をテーマに、観光学部、海洋学部、経営学部、国際化学部部の4学部が参加しており、観光による地域振興を目指して活動してきました。

DMC」の創出を軸に観光による復興を目指しています。こうした活動内容は、月に一度のテレビ会議で報告し情報を共有しているほか、昨年末に代々木校舎で開催したシンポジウムなどの機会も活用しながら、活動報告や学生を交えたパネルディスカッション等で議論、知識共有を重ねています。

湘南・代々木、清水、熊本、札幌と全国各地の校舎それぞれ教職員と学生が実地調査を行い、体験型観光ツアーの作成や観光マップの制作に取り組んでいます。熊本校舎は地震の影響で元々計画していた取り組みが、震災前後の比較や、地域を事業主体とする「復興

2020年の東京五輪開催を契機に増加している外国人観光客への対応、観光資源の創出方法をテーマとして構築し、全国各地に応用展開していくことを目標に、今後も活動を続けていきます。

## 06

## 文化・芸術事業

— 文化芸術で社会を支える基盤づくりを —

支える基盤づくりを —

本事業は、文化芸術を社会基盤の一つとしてとらえ直し、市民起点の新たな文化の創造や、多文化共生社会の実現の可能性を探求し、実践するプロジェクトです。

札幌校舎では、昨年10月19日から23日まで市内で開催された「札幌デザインウィーク」に出展し、学生たちが未来の暮らしを提案。11月7日には、ロシア・サハ共和国の口琴奏者とアイヌの音楽研究者によるレクチャーコンサートを実施しました。また熊本校舎では、9月9日から19日まで市内の島田美術館で、「長野克也コレクション・世界のたね

また、10月には3回目となるシニアアカデミーを開講し、教養学部芸術学科の教員を講師として、音楽、美術デザインの3講座を実施。12月3日の「TOKAIGROUカルフェスタ2016」では、ユニバーサルミュージアムについて考える「彫刻とエロス

展」を開催しました。湘南校舎では8月11日に、屋外のブロンズ像をメンテナンスすることで彫刻をより深く味わう「彫刻を触る★体験ツアー」を実施。本取り組みは、近隣の市町村との共同によるブロンズ像の修復保存計画に発展するなど、の広がりを見せています。

をテーマとした公開シンポジウムと、昆虫のブロンズ彫刻をつくる子ども向けのワークショップも行いました。いずれの企画にも学生がスタッフとしてかわり、教育的な効果も期待されています。参加者一人ひとりが未来の扉を開いていける事業展開を目指しています。

篠原 聡 准教授  
課程資格教育センター



松本 亮三 教授  
観光学部観光学科



観光学部の教員と学生は、大山と高尾山で実地調査を行った



地域ごとの産業や名物を観光資源に活かそうと活動してきた



音楽を通じてアイヌとロシアの文化を学んだ「口琴コンサート」



「世界のたね展」では、来場者からの質問に学生スタッフが丁寧に応じた



「メンテナンスは彫刻に触る貴重な機会」と参加者からも好評



公開シンポジウム「彫刻とエロス」では触覚による美術鑑賞などについて語られた

## 活動報告

### — 清水校舎 — 「門前町にふさわしいみち」 御穂神社周辺を調査

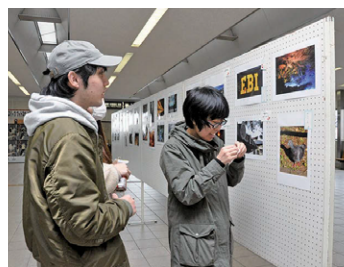
海洋学部環境社会学科の学生約20名が昨年11月11日から27日まで、静岡市清水区の御穂神社周辺で「門前町にふさわしいみち社会実験」を実施しました。



訪れた多くの観光客がアンケートに協力

2013年に富士山が世界文化遺産に登録され、構成資産・三保松原にも多くの観光客が訪れています。しかし、御穂神社周辺の歩道は狭く、交通事故の危険性が高まっています。そこで、大学推進プロジェクト「観光イノベーション」計画「地域観光事業」の一環として、同市の道路保全課と協力。試験的に歩道を拡張し、英語の案内看板を設置したほか、観光客にアンケートも実施しました。

### — 湘南校舎 — 写真展「すてきニッポン」 隠れた日本の魅力を紹介



写真には手書きの説明文が添えられた

小田急線・伊勢原駅構内で昨年11月10日から17日まで、写真展「外国人の目から見た『すてきニッポン』」を開催しました。地域志向教育研究経費採択課題「外国人の視点に立脚した新たな伊勢原市の観光資源創出」の一環として実施したものです。湘南校舎で学ぶ学生約30名が中心となり、日本へ観光に訪れた外国人の視点で撮影された写真を収集。日本の隠れた魅力を紹介し、新たな観光資源の発掘につなげようと、約60点の写真を展示し、駅利用者の目を惹きつけました。また、11月14日には湘南校舎1号館で「地域で取り組む外国人観光客へのおもてなし」と題した講演会も開催。世界的に有名な口コミサイト「トリップアドバイザー」などで取り上げられている旅館「澤の屋」(東京都足立区)を営む澤功さんを講師に招き、地域の飲食店などと協力した外国人観光客のおもてなし方について学びました。

### — サテライト — 展示・報告会「熊本復興へ」 支援活動の詳細を紹介



熊本での復興支援活動の様子を紹介

チャレンジセンターの特別プロジェクト「熊本復興支援プロジェクト」が昨年12月19日から22日まで、小田急線東海大学前駅南口のサテライトオフィスで写真と映像の展示会「熊本復興へ」私たちに出来ること」を開催しました。また、22日には報告会も実施しています。プロジェクトは、平成28年熊本地震で被災した熊本県各地の復興支援活動に取り組みもので、湘南、代々木、清水、伊勢原、札幌の各校舎から学生約50名が参加。8月21日から9月17日まで、被災した家屋の整理や、農作業の手伝いなどに従事しました。展示会と報告会は、熊本の現状と活動内容について多くの人たちに知ってもらおうと企画。活動をまとめたポスターなどを掲示しました。また報告会では、活動の詳細について紹介し、質疑応答では熱心な意見交換が行われました。

### — 高輪校舎 — タカナワンナイトステージ 光と演奏を楽しむ



地域とのコラボで華やかなクリスマスを演出

高輪校舎で昨年12月14日に、「タカナワンナイトステージ」が開催されました。地域志向教育研究経費採択課題「世代を超えた知の共有と育成を目指した地域連動型プログラム構築」の一環で、校舎のある港区における地域コミュニティの活性化を図ることを目的に初めて実施したものです。当日は地域の方々や教職員、学生らが多数参加。チャレンジセンター「Takunawa共育プロジェクト」のメンバーが設置したイルミネーションを背景に、本プログラムの一環で同校舎内に開設した「たかなわ子どもカレッジ」で学生たちと交流を続けている近隣の小学生たちが見事なハンドベルの演奏を披露。学生サークル「Takunawa Jazz Ensemble」や区民らによる「みなと第九を歌う会」も美しい音色をキャンパスに響かせ、参加者を魅了しました。

### — 代々木校舎 — 子どもたちとクリスマス会 学生がリース作りをサポート



オリジナルリースを作成する子どもたち

代々木校舎で昨年12月18日に、渋谷区富ヶ谷二丁目町会が主催するクリスマス会が開催されました。地域志向教育研究経費採択課題「スマイルよよぎプロジェクト」の一環として実施したものです。企画・運営には、チャレンジセンター・ユニークプロジェクト「よよぎ」が携わりました。今回は地域の子どもたちやその保護者、学生、教職員ら約200名が参加しました。当日は、クリスマスリース作りからスタート。学生が作った土台に子どもたちが松ぼっくりなどで飾りつけし、一人ひとりオリジナルのリースを完成させました。続いて、ゲストに招いたパフォーマーの「じっさい」がジャグリングやバルーンアートを披露。最後は富ヶ谷二丁目町会の役員がサンタクロースに扮してプレゼントを配って会を締めくくり、地域とのつながりを感じさせる催しとなりました。

## 文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」採択 「To-Collabo」プログラムによる全国連動型地域連携の提案

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見いだす取り組みです。To-Collabo(トコラボ)とは Tokai University Community Linking Laboratoryの略称で、日本全国に広がる総合教育機関の高等教育拠点である東海大学(Tokai University)の特色を生かした教育・研究活動と地域をつなぐ(Community Linking Laboratory)ことを示しています。

トコラボ WEB サイト

トコラボ Facebook



活動情報配信中!!

『To-Collabo通信』Vol.13 (2017年1月号)

発行 東海大学 To-Collabo推進室

〒259-1292 神奈川県茅ヶ崎市北金目4丁目1番1号

TEL 0463-50-2406(直通)

FAX 0463-50-2034

✉ E-mail

coc@tsc.u-tokai.ac.jp

🌐 WEB

https://coc.u-tokai.ac.jp/

👍 Facebook

https://www.facebook.com/tokai.coc



東海大学